



25:1 アブラハムは、再び妻を迎えた。その名はケトラといった。

25:2 彼女はアブラハムに、ジムラン、ヨクシャン、メダン、ミディアン、イシュバク、シュアハを産んだ。

25:3 ヨクシャンはシェバとデダンを生んだ。デダンの子孫は、アッシル人とレトシム人とレウミム人であった。

25:4 ミディアンの子は、エファ、エフェル、ハノク、アビダ、エルダアで、これらはみな、ケトラの子であった。

25:5 アブラハムは自分の全財産をイサクに与えた。

25:6 しかし、側女たちの子には贈り物を与え、自分が生きている間に、彼らを東の方、東方の国に行かせて、自分の子イサクから遠ざけた。

25:7 以上がアブラハムの生きた年月で、百七十五年であった。

25:8 アブラハムは幸せな晩年を過ごし、年老いて満ち足り、息絶えて死んだ。そして自分の民に加えられた。

25:9 その息子、イサクとイシュマエルは、アブラハムを、マムレに面するマクペラの洞穴に葬った。これは、ヒッタイト人ツォハルの子エフロン畑地にある。

25:10 アブラハムがヒッタイト人たちから買ったあの畑地である。アブラハムと彼の妻サラはそこに葬られた。

25:11 アブラハムの死後、神は彼の子イサクを祝福された。イサクはベエル・ラハイ・ロイの近くに住んだ。

25:12 これは、サラの女奴隷、エジプト人ハ

ガルがアブラハムに産んだ、アブラハムの子イシュマエルの歴史である。

25:13 イシュマエルの子は、生まれた順に名を挙げると、イシュマエルの長子ネバヨテ、それからケダル、アデベエル、ミブサム、

25:14 ミシュマ、ドマ、マサ、

25:15 ハダド、テマ、エトル、ナフィシュ、ケデマである。

25:16 これがイシュマエルの子孫である。これらは、集落と宿営ごとにつけられた彼らの名で、十二人の、それぞれの氏族の長である。

25:17 以上がイシュマエルの生涯で、その年数は百三十七年であった。彼は息絶えて死に、自分の民に加えられた。

25:18 イシュマエルの子孫は、ハビラからシュルまでの地域に住んだ。シュルはエジプトに接し、アッシルへの道にあった。彼らは、すべての兄弟たちに敵対していた。

アブラハムは高齢になってから再婚しましたが、それは生活の必要もあったでしょう。しかしそれがイサクの兄弟を増やすことになり、争いの種にもなり得ることでした。地上の生涯というのは、信仰があっても避けられない問題が生じます。

アブラハムは先ず、神の約束すなわち信仰の子イサクを第一としました。高齢になって生まれた子どもたちも可愛かったでしょうが、神の大きいなるご計画を忘れませんでした。そのために思慮深く最善を考えて、イサク以外の子どもたちを遠ざけたのです。

そのことは、信仰によって神の子とされた私たちクリスチャンが、イサクのように神様から特別な恵を受け、揺るぎない祝福の約束が与えられていることを表すこととなりました。その特別な祝福はイエス様の十字架によって実現したことです。このようにイエス様の救いとその継承は、すべての人情にまさって、またすべてのつながりにまさって第一とすべきことなのです。

しかし主はアブラハムが他の子供たちにも良いものを与えたように、神様も全ての人々を愛しておられます。神の価値観とは違うこの世の人々とは、正しく一線を引きなながらも、しかしこの世にあって人々を愛し、神様の愛を表していきましょう。また家族には信仰の継承を第一としていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

